

	児童の実態	改善プラン	改善プランの評価方法
国語	①課題を捉え、自分の考えをもつことはできているが、表現を工夫したり考えを深めたりできる児童は少ない。 ②多くの児童が漢字の読み方や書き方を覚えることはできている。しかし、日常の中で活用には至らない児童が多い。 ③文章を書くことを苦手とする児童が多く、表現の幅が広がらない児童が見られる。	①学習のねらいを明確にし、児童の思考を促す発問をする。ペアやグループで話し合う時間や自分の考えを見直す時間を確保し、考えを深められるようにする。 ②1単位時間の授業だけでなく、モジュールの時間や家庭学習でも学習内容を定着させていく。新出漢字の学習の際に、既習事項と関連付けて指導する等、繰り返し確認できるようにする。 ③ねらいや書く内容を明確にしてから、文章を書かせる。作例から書き方を学んだり、共通の課題で書き交流したりすることで、表現力を高める。	①児童のノートや作品から評価する。單元ごとに、児童に振り返りを書かせ、児童の実態を把握する。 ②日々の小テストの結果や、児童が書いた文章から、漢字の定着度を評価する。 ③「書くこと」の単元で書いた児童の作品や児童の作文、学習感想から、作文への意欲や技能を評価する。
社会	①全体的に学習に対する意欲が高い。特に資料から読み取ったり調べたりする活動に、意欲的に取り組んでいる。 ②資料から読み取ったことを基に、分かったことを活用して課題を解決する力が不足している。	①発問や資料提示の仕方を工夫し、学習への意欲を継続できるようにする。 ②授業内で、資料から読み取ったことを基に、自分の考えを文章でまとめ、学習した内容が、自分たちの生活にどのように関わっているか考察する時間を設定する。	①児童がノートに書いた内容や授業における発言、授業後の感想から評価する。 ②週案等を利用して、1単位時間ごとや單元ごとに、指導について自己評価し、管理職の助言を生かして改善を図る。
理科	①既習事項や生活経験を基にした予想から実験計画を立てたり、結果から分かったことをまとめたりする学習形態が身に付いてきている。 ②科学的な事柄に対する興味関心の高い児童が多い。 ③実験結果を多面的に考え、妥当な考えを作り出すことについては、まだ、身に付いていない児童が多い。	①「気付きや疑問などから学習問題を立てる。」「予想する。」「計画・実験する。」「考察する。」の流れを授業の基本とする。 ②身近な事象との関連に気付かせるための発問をする。また、自分の興味・関心を生かした調べ学習ができるように指導する。 ③実験結果から考えたことを自分なりにまとめる時間や話し合いの時間を十分にとる。理科の用語をしっかり押さえ、学習を定着させる。	①児童の学習への取り組みの様子から評価する。 ②單元ごとに学習感想を書かせる。 ③児童の意見やグループごとの発表などを、ICT 機器等を活用記録する。

家庭	①調理実習などの活動に意欲的に取り組む児童が多い。 ②裁縫や調理の実技は、経験の差が大きく、技能面で個人差が見られる。 ③自分の生活と関連付けて考えたり、学んだことを実生活に生かしたりする意欲をより高める必要がある。	①実技の時間を十分に確保できるように、事前指導や説明の時間を短縮していく。 ②実習のときには、作業手順を明確にすることで、児童が見通しをもって学習できるようにする。また、ボランティアの依頼をする。 ③家庭での実践の機会を設ける。また、交流活動を活発にすることで、友達の実践から学べるようにする。	①児童の活動への取り組み方や作品の完成度、授業後の感想から評価する。 ②授業支援ボランティアの感想や管理職による助言を生かし、改善を図る。 ③家庭科ノートの記述や発言から、児童の様子を見取る。
体育	①単元のめあてを達成できない児童が各学級に3～5名いる。 ②自分の学習課題を見付けたり選んだりできない児童がいる。	①場を工夫して運動量を増やすとともに、対話的によい動きを探る機会を設ける。 ②学習者用端末を活用し、自分の動きを撮影したり、参考動画を視聴したりできるようにする。	①単元の終末において、つまずきのある児童の技能習得度合いを確かめる。 ②学習者用端末を活用した際の児童の動きの変化を観察し、効果的であったかを評価する。
道徳	①互いの考えを交流させながら、自分の考えを深めていく力は不足している。 ②教材をとおして感じた道徳的価値を、自分自身に置き換えて考えることは苦手である。	①相手の考えをよく聞き、さらに自分の考えをもう一度見直す活動を取り入れていく。 ②授業の中で、自分自身の経験を振り返って考える時間を十分に確保する。	①週案等を利用して、指導について自己評価し、管理職の助言を生かして改善を図る。 ②ワークシートに書かれている内容や授業中の発言を見て評価する。
外国語	①外国語に対しては意欲的だが、苦手意識をもった児童も多い。 ②簡単な英会話を聞き取る力が身に付いている児童が多い。 ③会話やゲームなどに意欲的に取り組む児童が多いが、消極的な児童もいる。	①年間指導計画・授業スタイルを確立し、児童が挑戦してみようと意欲的に取り組もうと思えるような活動を計画していく。 ②会話練習やゲームなどのアクティビティを通して、楽しみながら身に付けられるような指導を継続していく。 ③一人一台端末を活用し、他校の児童と交流する活動を取り入れることで、積極的に学習に取り組めるようにする。	①会話練習やゲームなどに意欲的に参加をしているか、観察する。 ②単元の評価テストを通して、リスニングができているか評価する。 ③授業中にどのような考えをしているか、振り返りカードや発言などから評価する。
総合的な学習の	①活動に意欲的に取り組むことができるが、自ら課題を設定し活動を進めていくこと	①人、社会、自然に直接関わる体験活動を重視し、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫す	①自ら課題意識をもち、その意識が連続発展して課題を設定できているかを観察する。

時間	が苦手な児童がいる。 ②互いの意見をつながけながら話し合いを進めることに慣れていない。	る。 ②他教科等を通して、発言や話し合い活動の機会を増やし、話し合いのポイントを定着させる。	②「メリット・デメリット」「AとB」など多角的に発言できているかを観察する。
特別活動	①学級会では、皆の意見を生かして合意形成をすることに課題が見られる。 ②クラブ活動や委員会活動、ブロック班活動では最高学年として下級生をリードしようという意識が高まっている。しかし、経験不足から活動に迷いが見られる面もある。 ③学校行事の中で、主体性をより高める必要がある。	①学級会の計画を丁寧に行い、司会進行の力を育てる。また、話し合ったことを実行する機会を確保し、充実感をもたせる。 ②はじめは、児童が取り組むべきことを明確にし、安心して活動できるようにする。また、活動の中で見られたよさを大いに称賛し、自信を付けていく。振り返りをして、次につなげるよう助言する。 ③自分たちで考え、実行する機会を日常の中から取り入れる。行事ごとに実行委員や係を設け児童主体の取組になるようにする。	①児童の活動の様子の変容を見取り、改善に生かす。 ②児童の活動の様子の変容を見取り、改善に生かす。他学年の教員と連携して児童の様子を見取り、評価していく。 ③児童の活動への取組の様子を観察したり、児童に振り返りを書かせたりして評価していく。